

東北×東京の中学生による

チャリティー リレーマラソン 東京2015



寄付金使途報告

- | | |
|-----|--|
| 岩手県 | 大船渡市立大船渡中学校
大船渡市立日頃市中学校
大船渡市立吉浜中学校 |
| 宮城県 | 石巻市立蛇田中学校
東北学院中学校 |
| 福島県 | いわき市立勿来第一中学校 |

学校名	大船渡市立大船渡中学校
参加生徒数	11名
活動期間	平成27年8月～

■要旨(まとめ)

テーマ	合唱で故郷を元気にしたい
1.使途の内容	◇ 学校と仮設住宅の灯りのない場所(2ヶ所)に街灯を設置する。
2.選んだ理由	◇ 通学路に街灯が少なく危険な場所があり、この資金を街灯設置のために使えばよいのではないかと考えた。 ◇ この街灯を設置することで、大中学区の地域住民の方々の生活の安全にもつながり、災害時の避難などにも役立つと思われる。

■活動の記録

日付	訪問先・調査先 ・議論したテーマなど	内容
7月	チャリティマラソンの前に、活動の意義や募金の目的を考えました。	震災後、津波で街灯が流されてしまい、暗い場所が多くなりました。そのため、生徒が安全に下校できない場所があります。そこで、特に暗い場所に街灯を設置して、生徒や地域の方々の安全や災害時に安全に避難できるよう役立てたいと考えました。 また、街灯設置の費用が不足した場合は、全校で力を入れている合唱でチャリティコンサートを開催し、その費用を賄おうと考えました。
10月	街灯の設置場所について調査した。	街灯の設置に向けて学年執行部と生徒会で学校周辺や、通学路の暗いところを調査しました。大中には正門と北門があり、正門付近の階段が暗く、足下が見えず危険であることが分かりました。また、仮設住宅駐車場への入り口も大変暗く危険でした。そこで、その2ヶ所に街灯を設置したいと考えています。

■実施された内容がさらに効果的になるためには、今後必要と考えられること。

寄付金をいただくなどの支援を受けるばかりでなく、自分たちにも何かできることはないかと考えています。そこで、街灯設置の費用を、いただいた寄付金で賄い、12月に開催予定のチャリティコンサートの募金を、9月に起きた水害で被災した方々に送りたいと考えています。
コンサートは12月5日(土)に、市内にあるショッピングセンターのホールをお借りする予定です。

■参加した生徒の感想

学年	感想
2年	参加してみてたくさんの方々が募金してくださりありがたいと思っています。この募金を地域の人達のために役立てていきたいと思います。初めての募金活動はすごくいい体験になりました。
2年	募金活動に参加して東京の方々の優しさが伝わってきました。正直不安もあったけど、東京の中学生に仲良くしてもらって楽しむことができました。今後は寄付してくださったお金をしっかり活用していきたいです。
2年	募金活動を行っての感想は、お金を募金箱に入れてもらうという気持ちは初めてでした。やはり感謝の気持ちでいっぱいになりました。本当にありがとうございました。
2年	募金活動をしたことで、募金してくださった方々や協力してくださった方々に直接感謝の言葉を伝えることができよかったです。また、東京の方々や他の東北の方々と交流できてよかったです。
2年	自分と同じような思いの人や、同じようなことをしたい、もっと大きなことがしたいと思っている人と出会い、共に活動できたことで、これからも周りの多くの人と力を合わせていきたいと思いました。

学校名	大船渡市立日頃市中学校
参加生徒数	5名
活動期間	平成27年7月～平成28年6月

■要旨(まとめ)

テーマ	ふるさと発見、おらが町づくり ～東日本大震災からの復興に向けて～
1.使途の内容	<p>1 花いっぱい運動 地域の中核としての中学校の周りを花でいっぱいにし、地域住民を笑顔にする。 来年度は、岩手国体の年、おもてなしの気持ちも込めて、花壇作りをする。</p> <p>2 ふるさと発見「写真プロジェクト」 ニコンのカメラ支援を頂き、全校生徒が後世に残したい写真を文化祭や地域の施設で発表する。(写真の額縁購入)少子化が進んでいる日頃市町だが、中学生が大切にしたい風景を写真に残し、町民と共有し、おらが町の再発見の場とする。</p> <p>3 樺の里作り・ころ柿作りに貢献 大船渡市の花「樺」は、太平洋沿岸の北限の樺。絞って「樺油」にする。 大船渡市は、地域資源として樺利活用推進をしている。日頃市町内にも樺の木があり、11月には、実を拾う活動を全校生徒で行う。また、この活動を支援するために寄付をすることにした。寄付金は、大船渡市に生まれた子どもに「樺の苗木」をプレゼントするための資金となる。来年度は、樺の苗木の植樹もボランティアとして参加する予定。 ころ柿作りは、これから計画をする予定。</p>
2.選んだ理由	<p>1 地域を再発見する機会 いつも当たり前と思っていたふるさとの良さを再発見する機会になるだろうと考えている。 ① 樺の木があっても、今までは気にもとめていなかったが、「樺の実」を拾い、「樺油」にすること知り、お宝であることを認識できるだろう。 ② お宝の樺の木を植樹し、ふるさとをもっと良い町にしようとする心が芽生えるだろう。 ③ カメラのレンズを通し、ふるさとをじっくり見つめる生徒になるだろう。写真地域の方に見てもらうことにより、大人もふるさとを再発見できるだろう。 ④ 花いっぱい運動は、先輩たちからの継続した活動なので、日頃市町民が笑顔になれるように継続していきたい。来年は、岩手国体があるので、全国の方をお迎えする「おもてなしの心」も添え、活動したい。</p> <p>2 復興が進み、活気のある町 大船渡 ① 大船渡市に仕事がないと思っている人が多いけれど、見つめ直すことにより、大船渡市に仕事があり生活していこうとするだろう。 ② 自分たちが主体になって、仕事を作り出す大人に成長していこう。</p>

■活動の記録

1. 花いっぱい運動・・・7月から作業を開始した。花を育てることで、おもてなしの心・豊かな心を養う。7月、全校生徒で校舎周辺の花壇に、花の苗を植え付けた。

①



②10月・・・今ではこんなに沢山の花が咲いている。

校門前は、地域の方や小学生が通り、楽しみに見ている。



来年に向けて、花壇を整地したい。平成28年度は、岩手国体が開催される。「希望郷岩手国体130万人で参加宣言」163号の団体に登録され、他県からのお客様をお迎えする気持ち「おもてなし」も添えて、きれいな花を沢山咲かせたい。

2. ふるさと発見「写真プロジェクト」

ニコンからカメラの支援を受けて、後世に伝えたい日頃市や大船渡の風景を中心に写真を撮った。

写真には、題名を付け、自分の気持ちを添えて制作した。文化祭展示、JAの窓口やデイサービスセンターのロビーなどに展示し、多くの地域の方に見てもらい、元気になって欲しいと考えている。



- ① 10月 日頃市中学校の文化祭において、全校生徒が写した写真展を行った。中学生の目線で、ふるさを見つめ直すことが出来た。保護者や地域の方の喜んでもらった。



3 椿の里作り・ころ柿作りに貢献

11月5日(木)に「椿の実拾い」を実施

ころ柿

椿まつり



■実施された内容がさらに効果的になるためには、今後必要と考えられること。

- ◇ 11月5日(木)に「椿の実拾い」を実施する予定
大船渡市に10万円を寄付する予定。大船渡市に誕生した子どもに「椿の苗木」を贈る資金になる。
JAおおふなどを通じて、ころ柿作りの団体に10万円を寄付する予定。
- ◇ 12月5日(土)に大船渡市立大船渡中学校と共にチャリティーコンサートを開催し、募金活動をする予定。
- ◇ 中学生が継続して活動出来ることを、全校生徒で考えていきたい。

■参加した生徒の感想





学年	感想
2年	<p>募金活動では、最初はあまり大きな声をだせなかったけれど、東京の学校の方々が精一杯呼びかけをして下さっていたお陰で、私たちも声をだせるようになり、たくさんの金額が集まりました。</p> <p>チャリティーリレーマラソン東京2015では、暑い中とても疲れたけれど、最後まで走り切れて良かったし、充実した2日間でした。</p> <p>被災地を応援して下さる皆さんの気持ちが伝わり、とても勇気づけられました。大船渡市の復興に向けて、新たな一歩を踏み出すために大切に使いしていきたいと思います。本当に感謝しています。</p>
1年	<p>東京の生徒と東北の生徒で協力して活動してみて、募金活動はなかなか声をだせず苦労しましたが、東京の中学生の皆さんに助けをもらいながら声を合わせて募金活動が出来ました。たくさん募金して頂き、嬉しかったです。</p> <p>チャリティーリレーマラソン東京2015で走るときは、おなじ中学校の生徒がいなくて不安でしたが、バスの中で知り合った中学生の皆さんと友達になり、一緒に走りきることが出来ました。</p> <p>このような他校の人たちと協力して行える募金活動にもっと参加してみたいと思いました。</p>
1年	<p>今回、チャリティーリレーマラソン東京2015に参加して、自分が思っていたよりも、東北の被災地のことをたくさんの方が心を寄せていることを感じました。</p> <p>被災地のことを考えて下さっている人たちの思いを忘れずに、感謝の気持ちを持って、生活していこうと思います。また、中学生は小さなことしかできないけれど、復興に貢献できるように努力をしていきたいと思いました。</p>
2年	<p>チャリティーリレーマラソン東京2015に参加して、心に残っているのは、3つです。</p> <p>1つ目は、募金活動です。初めてのなので、声の出し方が分からなかったけれど、他校の皆さんに教わって、大きな声が出せるようになった。</p> <p>2つ目は、他校の皆さんとの交流です。チャリティーリレーマラソン東京2015で出会った友達と、今でもあって話す友達になれたことです。</p> <p>3つ目は、寄付していただいたお金を使って、地域貢献できることです。大船渡市の「椿」をもっと有名にしていきたいと思いました。</p>
2年	<p>私は、チャリティーリレーマラソン東京2015を楽しみにしていました。</p> <p>1日目の募金活動では、初めての体験でしたが、大きな声で呼びかけをすることが出来ました。</p> <p>2日目のマラソンは、走るのはあまり得意ではないので、走りきれるかどうか心配でしたが、友達になったみんなと一緒に走ったり、沿道の方々の応援があったりで、走りきることが出来ました。とても貴重な経験をすることが出来ました。</p> <p>皆さんからの支援金は、大船渡のために大切に使いたいと思います。</p>
1年	<p>学校の周辺に花を植える活動を通して、自分が植えた苗が大きく生長するのが楽しみでした。地域の方や小学生も喜んでくれたので、来年も花いっぱい運動に参加していきたいです。</p>

学校名	大船渡市立吉浜中学校
参加生徒数	6名
活動期間	2015年9月1日(火)～

■ 要旨(まとめ)

テーマ	被災地に希望の笑顔届けたい
1.使途の内容	<p>①ボランティア学習 障害者や高齢者の不自由さを学び、地域にある施設に行ってボランティア活動をするための事前学習を行った。</p> <p>②津波演劇 3年目となった津波演劇は、「東日本大震災のことを1000年後まで語り継いでいこう」という目的で始まった。地域の先人達の教えと、それによって被害を最小限にとどめた歴史をみんなに知ってもらい、後世に残すためにビデオ撮影をし、頒布する。</p> <p>③大漁旗の作成 まだなお多くの支援や地域の方の協力を得ながら学習している。そういう方へ、感謝の思いを込めて、ミニ大漁旗を作成し、配布している。</p> <p>④避難道路にソーラーライトを設置 災害の時に、安全に避難できるように設置する。</p> <p>⑤防災マップ作り 地域を歩き、地域の中で危険な箇所を確認して地図に書き込み、公民館や小学校等に配布する。</p>
2.選んだ理由	<p>①地域の子供達がそういう施設に行って交流したりボランティア活動をすることで、笑顔や元気を届けることが出来るだろう。</p> <p>②学区内の小学校や公民館等に配布し、津波学習の教材にしてもらうことで、防災への意識が高まっていくであろう。</p> <p>③生徒達一人ひとりの思いを「ミニ大漁旗」として伝えることが出来、感謝の思いもより伝わるだろう。</p> <p>④高齢者が多い地域である。災害時に、子供達や高齢者だけでも安全に避難できるようになるだろう。</p> <p>⑤②と同じ</p>

■活動の記録

日付	訪問先・調査先 ・議論したテーマなど	内容
昨年度～	避難道路にソーラーライトを設置	<p>・災害時、避難場所に避難する際、道路が暗いと安心、安全に避難場所に行けないのではないか。</p> <p>→生徒からは「あまり必要性を感じない」という意見も出た。今後、公民館とも話し合いながら、効果的な場所を決定し、設置していく予定。</p>
昨年度～	津波演劇のDVD化 防災マップ作り	<p>「東日本大震災のことを1000年後まで伝えたい！」ということで始まった津波演劇を、DVDにすることで少しでも防災に役立ててほしいという願いから。</p> <p>昨年度のものに更に手を加えていく。(工事等で危険箇所も変わっているから)</p>
8/26	感謝の思いを表す「ミニ大漁旗」作り 	<p>ねらい: 支援をいただいた団体等へのお礼と、地域に元気と笑顔を届けるため。</p> <p>方 法: ①生徒会執行部が大漁旗の原画をインターネットから、大漁旗に入れる文字をパソコンで作る。 ②全校生徒が、それを組み合わせて不織布に写し、色を塗る。 ③一週間に1枚ペースで、自分の都合の良い時間にどんどん作っていく。</p> <p>上記のことを生徒会執行部で話し合い生徒に提案した。生徒も快諾し、その後「ミニ大漁旗作り」を継続的に行い、様々な場面でお世話になった方々へ差し上げている。</p>
10/6	ふれあいランドいわて (福祉体験活動) 	<p>施設内の見学や、高齢者疑似体験、福祉ボランティアの講話等を通して、高齢者や障害者の身体の状態や思いを知る。</p>  

■実施された内容がさらに効果的になるためには、今後必要と考えられること。

- ①ボランティア学習：高齢者や障害者の抱えている不便さや不自由さについて、思いなどを学んできたので、今後は地域にある施設に出向いてボランティアを行う。
- ②津波演劇：文化祭での演劇を DVD にし、お世話になった方や地域の小学校等へ配布し、今後の防災に役立ててもらおう。また、DVD という形で残すことで「吉浜の奇跡」を 1000 年後まで語り継いでいく。
- ③大漁旗作り：今後も生徒自身の思いを伝える物として継続していく。
- ④避難道路のソーラーライトを設置：公民館等と相談して、効果的な場所に設置していきたい。
- ⑤防災マップ作り：自分たちが作ったマップを完成させ、公民館や小学校等に配布し、多くの方に見ていただく。

■参加した生徒の感想

学年	感想
3 年	<p>募金活動では、素通りの人もいましたが、中には「頑張ってるね」などと励ましの言葉をもらいながら頑張れました。途中で雨が降りましたが、浮間中の生徒会の皆さんが被災地のために一生懸命呼びかけているのを見て感動しました。</p> <p>今回のチャリティマラソンで多くの方々の支援や活動などを肌で感じる事ができてよかったです。</p>
3 年	<p>今回のチャリティマラソンでは、東京の生徒の皆さんが東北のために募金活動をしているのを見てとても感動しました。そして、募金活動をしているときに、色々な人に「頑張ってるね」などと言われてとても嬉しかったです。</p> <p>今回いただいたお金は大事に使っていききたいと思います。今回体験したことを一生忘れず、吉浜で漁師になって恩返ししたいです。</p>
3 年	<p>とても暑い中の募金活動やマラソンでした。募金活動では通行人の方々の温かさを感じることができました。マラソンでは、東北の中学生と東京の中学生で協力し合って、楽しく交流を図りながら走ることができ、とても思い出になりました。</p>
3 年	<p>初めてのチャリティマラソンで不安がありましたが、すぐに他校や東京の生徒さん達と仲良くなれて、楽しく走ることができました。</p>
3 年	<p>私は、今回初めてチャリティマラソンに参加しました。募金活動が始まって、東京の皆さんが被災者のために大声で募金活動を呼びかけている姿に驚きました。募金をするには、ここまで努力する必要があるのだと実感しました。2日間という短い時間でしたが、皆さんと募金やマラソンができたことは、私にとってとても貴重な体験になりました。あのような機会を与えていただきありがとうございました。</p>
2 年	<p>チャリティマラソンは初参加で、長距離が苦手な私にとって心配なところもありましたが、楽しみながら走ることができました。また、募金したり走ったりすることによって、他校の中学生や東京の中学生とも交流を深めることができました。募金活動でも、募金していただく際に応援してくれる人もいて、自分も頑張ろうという気持ちになりました。私にとってこの企画はとてもいい経験になったので、来年もまた参加したいです。</p>

学校名	石巻市立蛇田中学校
参加生徒数	5名
活動期間	2015年9月～2016年3月

■要旨(まとめ)

テーマ	私たちのふるさと「新たな蛇田」を復興させたい ～安心で楽しい時間を創造することを通して～
1.使途の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 学区内にある11か所の仮設住宅に、プランターに花を植えたものを寄贈した。 2 学区内にある11か所の仮設住宅の各世帯に、ダイナモラジオを寄贈する予定。 3 学区内にある11か所の仮設住宅の方々に蛇田中学校に招待して、『復興祭(仮)』を行う予定。
2.選んだ理由	<p>・実施したいと思った一番の理由</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 多くの人が集まったり、通る場所のそばに花があると明るい気持ちになれるのではないかと意見があり、プランターに花を植えて寄贈した。花の選定については、来春まで花を咲かせているということで、パンジーに決定し、各プランターに5株ずつ植えて寄贈した。 2 仮設住宅の自治会長さん方と話をを行った上で、また災害に遭遇した際に活用できるのではないかと思い、ダイナモラジオに決定した。昨年度はLEDライトを寄贈しており、昨年度とは違うもので、災害時に役に立つものとして決定した。 3 蛇田中学校の生徒は表現活動や創作活動が得意な生徒が多く、そんな生徒の力が発揮される文化祭、通称『蛇田祭(じゃでんさい)』は毎年大変な盛り上がりを見せる。それを仮設住宅の方々、復興住宅に新しく来られた方々を招待して披露すれば、一緒に時間を共有でき、お互いが楽しい気持ちになれるのではないかと考えた。また、蛇田中学校の西側には、大規模な復興公営住宅が建設されており、蛇田地区以外からも大勢の人たちが引っ越してくる。これらの人々が一同に会し、生徒との触れ合いの場を提供することで、テーマに沿った活動になると考えた。 <p>・活動や寄付をすることで、期待していること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これから東北地方は寒い時期を迎える。花があることで、すこしでも気分を変えられるのではないかと期待している。 2 昨年度はLEDライトを寄贈しており、さらにラジオがあることで、災害時における更なる備えができるのではないかと期待している。 3 文化祭の一部を披露したり、外部から音楽関係、芸能関係の方々を招き、ステージで演技を披露して頂くことで、仮設住宅の方々だけでなく、新しく蛇田に越して来られた方々、私たち生徒たちも楽しい時間を共有できるのではないかと期待している。 <p>・将来的に期待していること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 プランターに植えた花をプレゼントすることで、その周りに人の輪ができたり、管理の役割を分担することで、仮設住宅に住んでいる方々の交流の一端を担えればと期待している。 2 ラジオがあることで、災害時における情報収集がより効果的にできるのではないかと期待している。

	<p>3 これまでは、私たちが仮設住宅に伺い、獅子舞や合唱を披露してきた。今回は初めて学校にお招きすることで、より多くの生徒たちと交流をもち、より私たちのことを知ってもらえればと期待している。もともとこの地域にいらっしゃった方々と新しく引っ越して来られた方々との交流も深められるのではと期待している。</p>
--	--

■活動の記録

日付	訪問先・調査先 ・議論したテーマなど	内容
10月上旬 ～下旬	・石巻市蛇田地区にある仮設住宅の自治会長の方々との話合	<p>・仮設住宅の現状について伺った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 復興公営住宅が建設、完成されてきており、月日の経過とともに、そちらへ移っていく人が多くなってきている。 ➢ 時間の経過とともに、支援の輪が減ってきていると実感している。 ➢ 集会所も住人が少なくなってきているという理由で、閉鎖された仮設住宅もある。 <p>・現状、何が必要かを住人の方々に聞いてもらい、その希望に沿うような形で支援させて欲しいと話した。</p>
10/24	・プランターへの花植え作業	<p>・午後1時から部活動で学校に来ている生徒を中心に、プランターへの花植えを行った。どのようにすればきれいに植えることができるかを考え、自主的な活動を行うことができた。</p>
10/28	・仮設蛇田中央団地の方々へプランターに植えた花を寄贈	<p>・2つのグループに分かれて、蛇田地区の仮設住宅にプランターに植えたパンジーを寄贈した。</p> <p>・昨年に続き今年も訪問してくれたということで、非常に歓迎され、感謝の気持ちを伝えられた。</p> <p>・支援をさせてもらいに行った私たちが、逆に仮設住宅の方々からご厚意をいただいた気がした。</p>



■実施された内容がさらに効果的になるためには、今後必要と考えられること。

今回プランターに植えた花はパンジーで、来春まで咲いているそうである。枯れた後のプランターに新しい花を植えたり、その作業そのものを仮設住宅の方々と、生徒たちが一緒にできれば、今後も交流が続いていくのではないかと考える。

■参加した生徒の感想

学年	感想
3年	先日、仮設住宅にお住いの皆さまに、チャリティー・リレーマラソンで募った募金の一部を利用して、花を届けてきました。仮設住宅の皆さんの優しい心に、花を届けた自分まで、何かをもらえた気がします。今回のこの経験を大切に、これからも何らかの形で、復興に関わっていきたいです。
3年	私は、チャリティー・リレーマラソン東京2015に参加しました。今年は、昨年度に引き続き2年目の参加となりましたが、昨年に行わなかった共同募金が行われたりと、前回よりも中身の濃い活動になったと感じています。この活動で被災地に目を受けることの他に、仲間と関わったりしながら、普段できない経験を行えました。 この活動に参加する機会を与えて下さった先生方、日本フィランソロピー協会の皆さんには本当に感謝しています。ありがとうございました。
3年	今回で2回目の仮設訪問でしたが、自分たちがチャリティーで集めたお金で仮設の方々のためになれてよかったです。仮設の方が、「毎年ありがとう」と言ってくれたのがすごく嬉しかったし、私たち3年生は今年度で終わってしまうけど、この経験を大切にしたいです。
3年	今回、仮設住宅へお花をプレゼントし、喜んでいただけて、本当に気持ちがよかったです。このような気持ちを忘れずに、これからの生活を送っていきたいと思います。
3年	被災してしまった人々の笑顔を見れてうれしかったです。自分が卒業してからも蛇中と仮設住宅とのつながりを続けて欲しいと思います。
3年	普通の生徒では経験できない寄付、ボランティア活動に参加できたうえ、「ありがとう」という感謝の言葉もたくさんいただいてとてもすがすがしい気分になりました。参加できてよかったです。

学校名	東北学院中学校
参加生徒数	4名
活動期間	平成27年7月21日～

■要旨(まとめ)

テーマ	仮設住宅で生活を続けられる方と復興中宅等に移られた方の新しいコミュニティー作りや生活のためのお手伝い
1.使途の内容	<p>仙台市宮城野区扇町1丁目応急仮設住宅「おにぎり会」(「おにぎり会」OB会)への寄付を通して、</p> <p>① 扇町1丁目応急仮設住宅での定期的なイベント開催と施設管理のお手伝い</p> <p>② 仙台市新田東復興住宅等の住民の方々との交流イベント開催</p> <p>③ 青木町1丁目仮設住宅で生活を続ける方と復興住宅に残る方々を結ぶ企画の実施(ニュースレターの発行等)</p> <p>にする予定。</p>
2.選んだ理由	<ul style="list-style-type: none"> ● 理由について <ul style="list-style-type: none"> ・扇町1丁目仮設住宅で生活を続けておられる方(30人ほど)について <ul style="list-style-type: none"> ➢ 復興住宅へ仲間の方々が移っていかれる中で寂しさを感じておられるようである ➢ 復興住宅への移住の時期等がはっきりしなかったり、望む地域や間取りの住宅に移ることが出来ないかもしれないという不安や焦りを感じておられるようである ➢ 支援の方々の数が少なくなったり、イベントが少なくなったりしてつながりが薄くなってきているようである ➢ 除草や清掃等施設の管理について、うまく行われているわけではないようである ・復興住宅に移られた方々について <ul style="list-style-type: none"> ➢ 新たなコミュニティー作りや町内会との関係作りに苦慮されているようである ➢ 独居等生活を続けている中での問題が表面化しているようである ● 期待できること <ul style="list-style-type: none"> ➢ 仮設住宅で生活を続けている方と復興住宅に移られた方の生活のお手伝いを通して喜んで頂くことができる ● 将来的に期待できること <ul style="list-style-type: none"> ➢ 震災で表面化した独居や高齢化等地域の抱える問題の解決や年齢を超えた交流の機会を持つことができる

■活動の記録

日付	訪問先・調査先 ・議論したテーマなど	内容
7/24	扇町一丁目応急仮設住宅訪問	➤ マラソン報告
8/17		➤ 夏祭り打ち合わせ
8/22		➤ 夏祭り準備
8/23	扇町一丁目応急仮設住宅夏祭り	➤ 住民の方、復興住宅に移られた方との交流 ➤ 取材
8/29	扇町一丁目応急仮設住宅訪問	➤ 本校文化祭ご招待についての打ち合わせ
9/6	本校文化祭へのご招待	➤ 住民の方、復興住宅に移られた方との交流 ➤ 取材
10/3	扇町一丁目応急仮設住宅	➤ 芋煮会打ち合わせ ➤ 取材
10/31	扇町一丁目応急仮設住宅	➤ 住民の方、復興住宅に移られた方との交流 ➤ 取材
11/4	「おにぎり会」まとめ役の方のご招待	➤ 取材

■実施された内容がさらに効果的になるためには、今後必要と考えられること。

- 扇町一丁目応急仮設住宅での定期的なイベント開催
- 新田東復興住宅の方との交流の機会のための話し合い
- 「おにぎり会OB会」の方との継続した交流

学校名	いわき市立勿来第一中学校
参加生徒数	6名
活動期間	平成27年8月～11月

■要旨(まとめ)

テーマ	福島にアートで花を咲かせよう！
1.使途の内容	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「故郷に人が集まる」「集まった人が笑顔になる」「笑顔が故郷を元気にする」というサイクルを確立できるように、「田人アートミーティング」「サマーフラ・フェスティバル」「国道6号を桜でいっぱいにする運動」「こどもあそび工房での鳴き砂を用いた砂絵教室」「光のさくらまつり」など、いわきで行われる様々なイベントの実現に向けて寄付を行う。 ◇ ただ寄付を行うだけではなく、それらのイベントにボランティアと参加することで参加者の方々から直接話を伺うなどの交流を図り、今後さらにどのような支援が必要かを考える契機とする。
2.選んだ理由	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 地域の現状や課題、皆さんが上記を実施したいと思った一番の理由は何ですか？ ◇ いわきでは津波など直接の被害はもちろん風評被害も根強いので、多くの方々がいわきに集まって過ごすことができることが大切だと考えたから。また、美術部や報道委員会に所属しているので、そこで培った技能を活かせると思ったから。 ◇ 活動や寄付をすることで、以前と何が違うようになると期待できますか？ ◇ いろいろな現場に足を運んで活動に参加することで、自分たち中学生にも何かできることがあると実感できるし、大人主導の活動にも自分たちのような児童生徒が参加するきっかけになると思う。また様々なイベントが実現すれば、今も離れた場所で暮らす方々が福島に戻ってきたり、いわきに避難されている方が過ごしやすいと感じる環境作りに貢献できると思う。 ◇ 将来的にどんな事が期待できますか？ ◇ 風評に苦しんだり家族が離ればなれになってしまった人が、自分たちの故郷の良さを再発見できる。 ◇ これからもイベントが継続的に行われることで、人々の間に絆が生まれ、福島に人が戻ってくるきっかけとなる。 ◇ 中学生世代が大人になるころには、以前から暮らしていた人と避難してきた人との間の摩擦や仮設住宅の問題なども解決して、誰もが過ごしやすい故郷になる。

■活動の記録

日付	訪問先・調査先 ・議論したテーマなど	内容
6/1	タカノ写真館 高野正晃さん	・高野さんがワークショップの運営を務める「田人アーティストリング」についての情報収集 ・自分たちにできるボランティア活動の確認と参加のお願い
6/24	FMいわきディレクター 中川 敦さん	・中学生の自分たちが協力できる故郷の復興に関わるイベントについての情報収集
7/28	いわき青年会議所理事長 赤津慎太郎さん	・サマーフラ・フェスティバルにおける復興支援イベントの内容確認および提案
9/13	いわき鳴き砂を守る会副会長 高木照雄さん	・仮設住宅や子ども向け砂絵教室の実施依頼と協力について
9/25	いわき青年会議所 共生推進委員長 橘あすかさん	・国道6号を花いっぱいにする運動についての内容確認および提案 ・光のさくらまつりにおける復興支援イベントの内容確認および提案

■実施された内容がさらに効果的になるためには、今後必要と考えられること。

- ◇ 東京のみなさんが苦勞して集めてくださったお金なので、寄付をして終わりにしたくないと考えています。そこで、どのようなイベントの場合も必ず自分たちも参加して、その運営に協力したり故郷の復興のために役立っているかを確認したり、参加者の方々にイベントの感想や故郷への思いをお聞きしています。
- ◇ また、報道委員会の一員として日頃から番組作りに取り組んでいるメンバーもいるので、昨年「走れ！ナコイチ～故郷のために～」同様にテレビ番組としてまとめて、学校で上映して今後の参加を促したりコンテストに参加することで、福島が復興に向けて歩み続けていることをアピールしたいと考えています（番組としてまとめたものは、平成28年度のNHK杯全国中学校放送コンテストに出品する予定です）。
- ◇ なお、11月からのイベントとしては11月28日にいわき市平の中心部で行われる「光のさくらまつり」に参加を予定しています。今年はタクシープールに地元市民と相双地区から避難している方々との交流テントが設けられるそうですが、その運営や活動への協力を予定しています。

■参加した生徒の感想

学年	感想
2年	<p>ボランティア活動などを通じて、地域の方々とのコミュニケーションが広がり、より深く自分の地域の人々のあたたかさを感じることができました。なかなかできない体験ができ、人との関わり方を学ぶことができ、とても勉強になることばかりでした。</p>
2年	<p>中学生の私たちでも復興の役に立つことができ嬉しかったです。それに東北のことを思ってくれている東京の人たちがたくさんいてくれて、募金活動を一生懸命にしてくれる姿を見て心があたたかくなりました。</p> <p>マラソンはきつかったけど、一緒に走ってくれた東京の友達がいたので最後まで走りきることができました。これからも私にできる精一杯のことをやりたいです。</p> <p>マラソン後に参加したイベントの1つが田人アートミーティングです。今は廃校になってしまった学校にたくさんの子どもが集まって、いろいろなイベントを楽しみました。みんなすごく楽しそうで、たくさん笑顔を見ることができました。</p>
2年	<p>私はこのイベントや活動に参加して、たくさん学び、体験し、感じるすることができました。特に初めて参加したマラソンでは、東北や東京の生徒のみなさんと交流を深め、協力し、楽しい思い出ができました。</p> <p>マラソンの他に、他校生と募金活動もしました。どのようにしたら募金してくれるのかを考えて実行したものの、いろいろ傷つくことも多くありました。しかし、募金してくださった方々のあたたかい気持ちは決して忘れません。そして、そのお金を今度は自分たちがつなげたいという思いでボランティア活動をしました。復興に少しでも近づけるように、そして1人1人が震災を忘れないために努力したいとより深く思うことができました。</p>
2年	<p>去年も参加しているので、知っている人と会えた時はとても嬉しかったです。東京の中学生や東北の中学生といっしょに走り、会話がとても弾みました。</p> <p>募金活動の時はなかなか集まらなかったけれど、東京の中学生の呼びかけによりたくさんのありがたい言葉や募金をいただき、とても嬉しかったです。</p> <p>最初は同じ学校の人と集まりがちだったけど、だんだん慣れてきて他の人と話すことが楽しくなった2日間でした。</p>

2年	<p>東北熟議で東北の6校が自分たちにできる支援とは何かを考え意見を交わし、それぞれの地域の現状が見えてくるとともに自分たちが考える復興に向けての道が見えてきました。私たちは「福島にアートで花を咲かせよう」というテーマを決めて、美術部でみんなを笑顔にしたいという思いでマラソンに参加しました。迎えたマラソンでは東京の中学生と交流を深める中、自分たちの思いを伝え合い、ボランティア活動への参加に胸を膨らませました。</p> <p>現時点で行ってきた活動は、田人アートミーティングの記録とお手伝い、サマーフラ・フェスティバルの司会、小浜パーキングでの進行や清掃などです。その中でも印象深かったことは、活動を通していく中でみんなが笑顔になってくれたことです。活動の途中でもみんなが笑顔で助け合い、協力して「頑張ろう」というエネルギーにもつながり、必ず最後にはみんな達成感にあふれたすがすがしい笑顔になりました。これは私たちが考えたテーマにもつながったし、中学生の自分たちにできるいちばんの復興支援だと思いました。この活動だけでなく、普段から意識して行動したいという意思を持つようになり、人間として大事なことを教えられたような気さえます。</p> <p>そして、この事業に参加できたことにとっても感謝しています。私の将来の夢にもつなげることができました。この活動をもっともっとたくさんの方々に知ってもらいたいと思います。本当にありがとうございました。</p>
保護者から	<p>子どもがこの事業に参加できて本当によかったと思います。本人もこのイベントに参加したことをとても喜んでいました。先生やイベントに関わった方々にとっても感謝しています。ありがとうございました。</p>
2年	<p>私は東京の生徒や他の東北の生徒との交流で、福島県以外の震災による被害の痛ましい現状を知ることができました。さらに、東京の生徒が復興のためにいっしょに頑張ってくれたこともあって、より熱意を持って寄付活動やボランティア活動に参加することができました。これからも、復興のために自分にできることを頑張っていきたいと思うことができました。</p>